

慶応元年九月一日より慶応元年九月二日まで

P8311310 left

九月

朔日亥 雲午下晴 驗温計五十六度(撰氏十三度)、但し午前第十一時也、今朝初て火闇を□く
ウエルニーより件(くだん)の相談有し別に書記し歟、達佐兩人ナボレラン靈屋一見として

行く、晴軒、午後晴軒幾欠伸公来燕雀近人馴玻瓈(*)窓底

凭(*)床睡烘?得満身暄(*)似春、即目多時倚盡夕陽樓強説?

無愁却攪(かく)愁河水(レイン河傍客舎)似吾帰思□滔々日夜向東流

二日子 晴陰不一

ウエルニーへ昨の件の決答□□ぶ、作三兩人へ其程中新少許?一條□の手数を□し謝として羅紗
羽織地銘々へ遣す、ヘラルト御雇の義に付、外国ミニストルロアンテリスより返翰差越す、作三

演書肆へ

*1:玻瓈(はり)、水晶、ガラスの別名「デジタル大辞泉」

*2:凭(もたれて、凭れて) 体重をかけて

*3:暄(かまびすしい、暄しい、やかましい)

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。